

開催報告

動物看護師シンポジウム「動物看護師(士)制度の確立に向けて」 動物看護師 研究発表会



「2008 年度 JAHA (社団法人 日本動物病院福祉協会) 年次大会」において、上記行事が開催されました(2008 年 7 月 26 日(土) 東京大手町・サンケイプラザにて。共催: 全日本獣医師協同組合、日本小動物獣医師会、日本動物衛生看護師協会、日本動物看護学会)。定員 150 名の部屋は、動物看護師・獣医師らで満員となっていた。

※以下 敬称略

総合司会: 小嶋佳彦 (新潟県・小島動物病院アニマルウェルネスセンター 院長)

第 1 部／動物看護師シンポジウム「動物看護師(士)制度の確立に向けて」 70 分

座長: 中川秀樹 (日本獣医師会 副会長)

パネリストと発表内容:

- 「資格制の創設に当たっての環境整備」から実施に向けて／杉本恵子 (日本小動物獣医師会理事)
- 動物看護師(師)の職務・待遇の実際／原大二郎 (JAHA 専務理事)
- 動物看護師(師)が行う病院内業務
／富永良子 (大阪府 ネオ・ベッツ VR センター動物看護士長、JAHA 認定 1 級動物看護師、本学会認定動物看護師)
- 獣医療技術者(動物看護師等)の国家資格制度確立への基本的考え方
／福所秋雄 (日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医保健看護学科 学科主任・教授)
- 動物看護職全国協会の発足に向けて(現状と今後の対応)／大森伸男 (社団法人日本獣医師会 専務理事)

第 2 部／動物看護師 研究発表会 60 分



座長: 本好茂一 (帝京科学大学 生命環境学部 アニマルサイエンス学科 教授) 左

アドバイザー: 若尾義人 (麻布大学 獣医学部 獣医学科 外科学第一研究室 教授 <本学会理事>) 中央

西谷孝子 (広島県・西谷獣医科病院 本学会認定動物看護師 <本学会理事>) 右



1. 外来看護記録用紙作成に向けての検討 —臨床動物看護研究会におけるグループワーク—

遊座晶子（茨城県・つくば国際ペット専門学校 教諭 本学会認定動物看護師）

●外来看護の役割とは、診療や治療または指導を受けた患者動物と飼主が、その日のうちに自分の生活の場に戻り、得たケア内容を活かして飼主家族が生活調整を行なう過程への援助である。そのような中、私達は動物医療チームとしてどのような場合であっても安定した信頼のおける動物医療を提供することが大切になる。診療記録としてカルテがあるように、看護についてもその過程を記録に残すことが必要になってきていると考えられる。

●臨床動物看護研究会では、動物看護学という学問が存在していないため人の医療における看護を応用し、平成18年7月より5回にわたり入院看護記録の概念から記録方法、看護記録の重要性について学んできた。その中で、研究会参加者それぞれが、外来看護を記録に残すことの必要性を強く感じたため、グループワークを導入し外来看護記録用紙の作成を試みることにした。その結果、今回は外来看護記録用紙の作成には至らなかったが、グループワークを振り返ることで今後の外来看護記録用紙作成に向けての示唆が得られたので報告する。



2. 当院での外来看護記録の作成

齋藤みちる（神奈川県・七里ガ浜ペットクリニック 本学会認定動物看護師）

●外来診療は短時間で患者動物の健康状態、飼主の要求を把握し、さらに看護の必要性を判断し、援助することが要求される。その中で動物看護師は快適な外来環境を提供し、動物の負担軽減と継続看護を実践させる役割を担う。また日本動物看護学会の第2期臨床動物看護研究会、動物外来看護グループワークに参加し、その結果、個々の病院の体制に合った外来看護記録作成の必要性を感じた。

●今回当院で作成した外来看護記録は問題志向型システム（POS）を一部採用、参考にしている点と動物と飼主主体に分けて看護上の問題点等を整理している点を特徴としている。また作成した看護記録は動物の健康状態の把握が容易にでき、同時に飼主の心理的・精神的なケアも可能になる。さらに院内スタッフ間の情報共有がスムーズになる利点がある。しかし問題点としてカルテとの重複がある。これは時間の無駄であるという考え方、問題の再認識につながるという両極端な考え方もあり、今後の検討を要する。また全ての症例で行うのが難しい点や記録をとるのに時間がかかる点についての問題も検討を要する。



3. 動物病院におけるパピー教育の重要性—自分達にできる第一歩—

安齋智美（東京都・ダクダク動物病院 広尾セントラル病院 JAHA1級VT）

●ここ数年、日本においても、パピーの社会化についての認知度はとて高くなりました。同時に、動物医療の一環として、問題行動予防を目的としたパピー教育を、多くの動物病院が重要視し始めているように感じます。

●私たち動物看護師が、病院で行うパピー教育といえば、理想は“パピークラス”です。しかし、現実的にはスタッフ数や場所の問題など、いろいろなハードルもあり、開催するのは容易ではありません。

●パピークラスは難しくても、（パピーパーティーではなくて）自分達にできるコトは沢山あります。今回の発表で皆さんにお伝えしたいのは、科学的な研究結果ではありません。数値化できるものでもありません。あくまでも、当院で行った4年間のクライアント・エデュケーションの経験をもとに、自分達にできるパピー教育の第一歩として、そのポイントをご紹介させていただき、少しでも参考にさせていただいたら嬉しく存じます。



4. ミニチュアダックスフンドの椎間板ヘルニアについて一院内での調査結果をもとに一富永良子（大阪府 ネオ・ベッツ VR センター

JAHA 認定 1 級動物看護師、日本動物看護学会認定動物看護師)

●当院は、かかりつけの動物病院より紹介を受ける、2 次診療病院である。紹介の中でも外科手術を希望されるクライアントが多く、その中でも最も多い症例のひとつが椎間板ヘルニアである。今回の調査期間 6 ヶ月間における椎間板ヘルニアに対する手術総数は 104 例であり、発生部位としては頸部が 15 例、胸腰部が 89 例であった。そのうち、ミニチュア・ダックスフンドは 70 例、他犬種での胸腰椎椎間板ヘルニアは 19 例であった。その中で最も多いミニチュア・ダックスフンドにおいて、特に Hansen I 型の胸腰椎椎間板ヘルニアについて検討した。

●このような症例の集まる 2 次診療施設で勤務する動物看護師として、今後、更なる調査を実施することは、看護学確立の一助として重要と思われる。それにより、患者やオーナーと密に接する 1 次診療の動物看護師のクライアントエデュケーションや予防に繋がることを期待する。

第 1 部のシンポジウムでは、各々の立場から、動物看護職の現状分析と今後の展望が語られていた。

続く第 2 部の研究発表会では、日本動物看護学会と JAHA から各 2 名の動物看護師が、日常業務の現場において見出したテーマで研究発表を行った。第 2 部座長の本好先生は、「動物看護師の地位向上は、動物看護師が積極的に自らの手で、業務実績をアピールすることによって切りひらかれるべきだ」と述べておられた。本学会としてもこれに賛同するものであり、この方向性を今後の活動の中でいっそう推進していきたい。

文責：事務局

先述のとおり、この報告における「発表内容の紹介文」は、大会テキスト(抄録)からの引用です。引用は、各発表の趣旨が誤りなく伝わるよう、細心の注意のもとこれを行いました。引用責任は事務局にあります。